

2009年度**大学祭**あおば

～てつりびと～



研究テーマ：交通機関の広告

東北大学鉄道研究会
Tohoku-University Railway Fan Club

CONTENTS

会長あいさつ	p.2
活動内容紹介	p.3
入場券製作記	p.5
模型紹介	p.6
展示写真紹介	p.8

大学祭研究発表 交通機関の広告

広告の掲載位置と見え方	
・鉄道（広告の掲載位置とその見え方）	p.10
・バス（バス車両における広告の見え方）	p.15
広告を掲載する企業（車内広告の企業をみる）	p.23
車体広告（車体広告）	p.32
交通施設の広告	
・JR 駅（駅施設内の広告）	p.37
・地下鉄駅（仙台市地下鉄における広告）	p.44
・バス停（バス停の広告）	p.48
広告の料金（仙台地区に於ける各交通機関の広告料）	p.54
『青葉』のご案内	p.67

会長あいさつ

東北大学鉄道研究会 代表 

本日は、東北大学鉄道研究会の大学祭展示、「てつりびと～東北の鉄道2009～」にお越しいただき、誠にありがとうございます。今年も、鉄道模型レイアウトの展示運転、鉄道写真やグッズ、会員個人のコレクションなど多彩な展示で皆様をお待ちしております。また、この学祭あおばの特集といたしまして「公共交通機関の広告」を取り上げております。日頃利用する公共交通の、あまり注目されない部分であるかもしれませんが、会員各自が独自の目線で考察を行いました。

鉄道は、一度は、モータリゼーションの進行の一方で鉄道利用の減少が特に地方において顕著となり、利用者の減少に伴う地方私鉄の廃止など悲しいニュースも聞こえてきましたが、近年は環境への関心が高まるのに伴い、自動車と比較して環境負荷の少ない交通手段として再び鉄道が注目を集めつつあります。また最近では、東北地方の JR 線とローカル私鉄が乗り放題になり、気軽に鉄道旅行が楽しめる切符が発売されるなど、鉄道は単なる移動手段ではなく、移動する過程そのものを「楽しむ」対象にもなりつつあります。展示だけでは鉄道で旅する楽しみそのものまでは伝えきれないかもしれませんが、今回のこの展示では、鉄道趣味の楽しさ、ひいては鉄道の楽しさを伝えられたらと思います。お時間の許す限りどうぞごゆっくりとお楽しみください。

活動内容紹介

飛北

東北大学鉄道研究会（通称「鉄研」）は、1959年に設立された学内でも歴史あるサークルです。現在は14人の現役会員が在籍し、和気あいあいと様々な活動を行っています。

大学祭研究：毎年10月後半から11月前半に行われる大学祭（今年は講義等の改修で11月末）では、研究テーマを設定して発表を行います。ここ3年のテーマは、「常磐線(岩沼ーいわき間)」、「仙台市地下鉄」、「東北の新幹線」と、その年の話題の鉄道テーマを中心に、様々な方面から鉄道について研究しています。

会誌『青葉』：会員全員で編集作業を行い、印刷・製本は業者に委託して作る、外部向けの会誌です。鉄研活動の集大成といえる物です。現在、39号までが発刊されていて、通信販売でお求めいただけます。詳しくは、当会ホームページの「会誌『青葉』について」をご覧ください。

部内誌『あおば』：有志が原稿を持ち寄り、印刷・製本を自分たちで行う部内向けの会誌です。部内のみということで、投稿内容も鉄道にとどまらず、旅行記や専門的な技術レポートなど、会員各自の趣味活動を宣伝する場としても有効活用されています。

鉄道模型：大学祭と春の「文化フェスティバル」では、本格的な鉄道模型レイアウト展示と公開走行を行います。詳しくは「模型紹介」の記事をご覧ください。

花見：新歓活動を兼ねて、毎年4月下旬から5月上旬に開催します。場所は、柴田町船岡の白石河川敷です。ここは「一目千本桜」の名で有名な桜並木と、東北本線の列車とが同時に眺められる場所であり、私たちにとっては格好の花見スポットです。

芋煮：花見と同様、芋煮も列車の見えるところで、というのが鉄研です。仙山線の奥新川駅附近の河原や、東北本線の南仙台駅附近の名取川の河原で行います。味噌味(宮城風)としょうゆ味(山形風)の両方を毎年作っています。

合宿：毎年、春と夏の長期休暇の時期に行います。鉄研の合宿は、合宿地と集合時間だけが指定されていて、そこまでのルートは完全に自由で、各自乗りたい列車に乗ったり、寄りたい土地に立ち寄りたりしながら合宿地に向かいます。宿に着くと、皆自分のルートを発表し合い、盛り上がります。今年は、春合宿を松山、夏合宿を松江で行いました。合宿の後は各自の旅行記を綴った『合宿あおば』を発行します。

乗車会：公式行事としては5月の新歓活動の一環として新歓乗車会を行います。その他珍しい列車(旧型客車など)が走るときなどに随時開催します。

撮影会：臨時列車が走るときなどに、有志を募り随時撮影に出向きます。最近では磐越西線や米坂線を中心に出向いています。

部室について

鉄研の部室は、C棟向かいのプレハブ、サークル仮棟のG-12です。入口上の「鉄道研究会」と書かれた看板が目印です。鉄道模型のレイアウトはこの部室に棚を作って収納しています。また、本棚には歴代の先輩方が集めた時刻表や各種資料が所狭しと並んでおり、研究の際に非常に役立っています。窓際にはバスの方向幕が置かれており、部室が閉まっている時は「回送」、開いている時はそれ以外を表示させることで、部室が開いているかどうか外から分かるようになっています。

ホームページについて

鉄研のホームページは、2000年に開設されました。鉄研会員ならびにOBの情報交換の場として活用されています。

アドレスは <http://www.aoba-trfc.ne.jp/> です。

今年の春からは公式ブログも始めました。

ぜひ一度ご覧下さい。

入場券製作記

飛北

在来線をはじめ、新幹線や地下鉄など、鉄道に乗車する際は切符を購入しなくてはなりません。最近では、SuicaなどのICカード乗車券が普及したことにより、以前より切符を手元に持つ機会は少なくなっていますが、やはり紙の切符は味のあるものです。鉄道趣味の中には、切符集めもあるほどです。そこで、当会でも鉄道研究会と名乗るからには、大学祭の展示に入場していただく際にも入場券が必要だろうということで、展示にいらっしやった方々に、毎年記念となる切符類をお配りしています。

例年は実際に存在する切符をもじって入場券を製作してきましたが、今年には50周年ということもあってオリジナルデザインで製作することになりました。当会が発足した1959年は、まだ蒸気機関車が現役で活躍していましたが、現在では新幹線が都市と都市を結び、鉄道高速化時代となっております。入場券は、蒸気機関車の動輪と新幹線をデザインし鉄道の移り変わりを表現するとともに、50年変わることなく当会が現在へと至っていることを切符風に表現しています。

また、ハンコを押すスペースを三つつくり、3日すべて来場しハンコを集めた方にプレゼントを贈ることになりました。複数のハンコを一枚の切符に押すスタイルは、青春18切符からヒントを得ました。

来場された記念に、ぜひ切符をお持ち下さい。

 50 th anniversary TRFC since 1959~ Tohoku-University Railway Fan Club	Von	1959	→	Nach	2009
	No. <input type="text"/>				
11/21			11/22		11/23
Home Page http://www.aoba-trfc.sakura.ne.jp					

模型紹介

飛北

当会の鉄道模型レイアウトは13のセクションとヤード、ヤードとセクションをつなぐ引き込み線からなっており、毎年古くなったセクションを新たなセクションに作り替えています。

各セクションには、その年の新入生が決めたテーマがあります。新入生の地元や、鉄道的な見せ場、海岸線から山岳路線、都会のど真ん中があれば田舎もあつたりと、多種多様なテーマのもとに作られたレイアウトをお楽しみ下さい。

今年は夏休みが1ヶ月長く、学祭も1ヶ月遅いということで、2セクションを新たにしました。1つは「京急上大岡」セクションです。新入生の趣味が集まったセクションで、大きな高架駅と駅前・高架下にバスターミナルがあります。もう1つは「山田家」セクションです。大豪農の家と大きな田圃が売りです。ちなみに、この大豪農の名前は山田さんで、子供がいて・・・という裏設定まであって、ちょっとした「山田家ワールド」が広がっています。

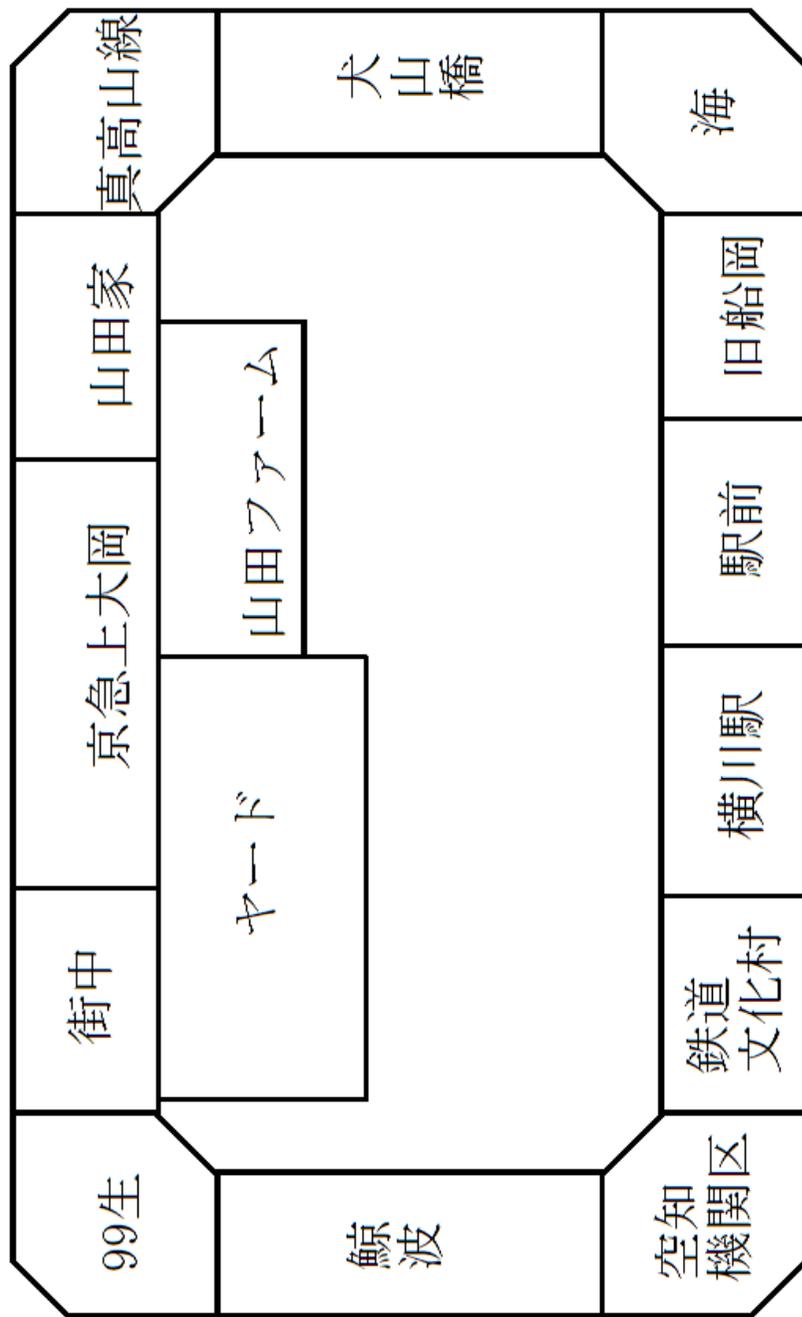
今年はさらに、ヤードへの引き込み線も一新しました。こちらは大豪農・山田さんの叔父さんが経営している厩舎という設定です。山田家ワールドがここまで広がるとは、正直予想外でした。

また、毎年好評の「プラレール」展示走行を今年も行います。今年は、展示する教室が大きいこと、プラレール好きの会員が入ったことがあり、例年よりも大々的に展開します。

尚、お客様にお願いがあります。

- ・鉄道模型は大変精密でデリケートな物ですので、お手を触れないようお願いいたします。
- ・お客様が持ち込まれた車両を当会レイアウト上で走行させることはできません。何卒ご了承ください。

鉄道模型レイアウト セクション見取図



展示写真紹介



鉄道趣味には、様々なジャンルがあります。鉄道写真を撮影する人々のことを「撮り鉄」と言うことがあります。「撮り鉄」は、四季折々の美しい風景の中を走る列車や、お気に入りの列車、珍しい列車を撮影するために、暇さえあれば、せっせと線路際に足を運んでいます。「鉄道写真を撮る！」と心に決めた日には、冷たい雨が降りしきる中でも、暑い太陽が厳しく照りつける中でも、撮影に繰り出すのです。

今年も、当鉄道研究会では、部員が全国各地で撮影した鉄道写真をパネルに貼り、展示しております。美しい風景の中を走る鉄道の写真や、旅情たっぷりの鉄道の写真など、様々な角度から鉄道を表現いたしました。どうぞごゆっくり、ご鑑賞ください。

なお、鉄道写真を撮影する際は、線路横断や鉄道用地内、一般の方の私有地への侵入など、**列車運行に支障の及ぶ危険行為は絶対におやめください！**



大学祭研究発表

交通機関の広告



仙台市地下鉄東西線のラッピングを施されたバス

広告の掲載位置とその見え方

広告の内容は多種多様であるが、掲載位置はある一定の場所に限定されている。その理由について、私は次の二点があると考えます。一つ目は、広告の掲載は本来業務（鉄道の場合では旅客・物資輸送）ではないため業務及び利用客の妨げになってはいけないこと。二つ目は、広告はその存在に気付いてもらい内容を伝えなければならないことである。つまり、広告は邪魔ではなく、且つ見やすい位置に掲載されているのである。

ここでは上記の考えを下に、仙台駅構内及び仙台駅に乗り入れる車両（新幹線・特急車両を除く）の広告掲載位置とその見え方を考察したい。

(1) 仙台駅二階東西自由通路と車両車内

まずは駅の通路と車両を同時に紹介する。この二つは一見したところ異なるが、長く伸びる空間、窓が側面に並ぶ配置、人が中を移動する場所という点でよく似ており、そのため広告の掲載位置が酷似している。この場所で見られる広告の掲載位置は以下の三つである。

- ・天井からの吊り下げ
 - ・側面と天井の境界部分（窓の上）
 - ・窓と窓、窓と扉の間の壁面
- それぞれについて考察する。

① 天井からの吊り下げ

この掲載位置は、鉄道車両内では中吊り広告と呼ばれ、厚手の紙に内容を印刷したものを天井にある吊り下げのための装置に挟んで掲載している。仙台駅二階東西自由通路では中に蛍光灯が仕込まれた看板が設置されており、車両内とは構造が異なるが位置や見え方はほぼ同様である。この掲載位置は、表裏なく広告が掲載でき、より多くの人にアピールすることができるという。いい。

最初に通路又は車両内を歩くとき（立ち止まっているときも含む）について考える。冒頭で述べた、邪魔ではなく且つ見やすい位置という観点から言うと、まず歩行の妨げになるような高さではない。私（身長約 175cm）が手を伸ばして届くくらいの高さであるから、およそ 210cm の高さに設置されている。よほど背の高い人でないかぎり邪魔になることはない。また、人の頭より上にくることから、ものの影になって見えなくなることもあまり考えられない。そのためよく見える位置といえるが、しっかり見るためには若干首を上に向ける必要はある。

続いて車両内で着席したときについて考察する。先にロングシート（車両の進行方向に対して水平な方向に並ぶベンチタイプのシート）に着席したときを考えると、自分の真正面にくる広告は見ることができない。そこから左右に視線を移動すると、真正面以外の広告は読み取ることができる。しかし、首は上を向き、左右どちらかにねじっていることになるから、回りからは明らかに広告を見ていることが分かる姿勢である。また、空いて

いるときは広告が見えるが、混雑時に着席している人の前に立ち客が現れると広告は見えない。

次にクロスシート（車両の進行方向に対して垂直な方向を向いて並ぶシートで多くの場合は二人掛け）に着席したときを考える。広告は視界の左上又は右上にあり存在は確認できるが読み取ることがまではできない。しかし、目線を少し向けるだけで内容を読み取ることができた。またクロスシートの場合、目の前に立ち客が来ることはまずないため、混雑していても立ち客がいても広告が見える。

② 側面と天井の境界部分（窓の上）

この位置は側面と天井の境界で角になっており、また窓の上で車両内では網棚の奥にあたるため、デッドスペースになっている。車体や通路の壁面に沿うように掲載されているので、邪魔になることはない。

見え方については、先に通路の場合について考える。この場所は、通路を歩いている時には視界の端に入るがはっきりとは見えない。首を少し向けることで読み取れる。しかし、通路という場所である以上、立ち止まったり横を向いて歩いたりすることは出来ない。目立つ色を用いるか、大きな字を使用するかなど、一目で印象に残るような工夫を施さないと広告効果は低くなってしまいうだろう。もちろん、広告である以上、目立つ場所であってもそうした工夫をすべきではあるが、この場所はより一層その傾向が強いように思う。

次に車両内の広告について考察する。まずは車両の通路を歩いている時だが、この時は駅の通路での見え方と大差ない。それどころか、駅の通路に比べて広告が小さくなり、また網棚の奥ということで見えにくい。続いて着席した時だが、ロングシートの場合、視野の上方に入る。視線を大きく動かす必要が無く、掲載されている位置としては見やすい。しかし、先にも述べたがこの場所の広告は小さく、網棚に荷物が置かれている時にはほとんど見えない。クロスシートの場合は、自分が座っている側の広告が自然と目にはいることはない。反対側やや前方に掲載されている広告は目に入る。しかし、同じ結論になるが小さく網棚の奥にある広告は見えにくい。

③ 窓と窓、窓と扉の間の壁面

この掲載位置も②と同様、壁面に沿うように貼ってあるため邪魔になることはない。窓と窓、窓と扉の間の壁面とまとめたが、壁面ではなく、扉のガラス部分に掲載されているものも確認している。ステッカー状の広告が直接貼られているものと、額に入って掲載されているものの二種類があり、大抵の場合ステッカーよりも額の方がおおきかったが、それ以上にこの二つの違いは張り替える周期のように思われた。ステッカー状の広告は季節を選ばない内容であり、額にはいつている広告はキャンペーンなど、広告を出す期間が限られものであった。これは、広告の張り替える際、ステッカーをはがして新たに貼るより、額の中を入れ換える方が手間がかからないからであろう。

見え方を考える。先ず駅の通路に掲載されているものだが、これは窓と窓の間隔が広いいため大きなものが掲載されており、目線前後の高さに掲載されていることもあって、側面にある広告でありながら目を引く。しかしながら、側面にあることで内容をはっきり読み取ることはやはり難しい。ただし、大きいこともあってか、立ち止まって見るまでしなくても読み取ることは出来る。

続いて車両内の掲載広告だが、こちらは A3 程の大きさがある額に入ったものと、15cm 四方くらいのステッカーで貼られているものがある。額に入っている方は、窓と扉の間の駅面に掲載されており、車内通路を歩く時は全体的な印象しか掴めないが、降車時にドアの前で立っているとよく見える。また、仙台駅に乗り入れる JR 普通車両は、仙石線の 205 系の一部の車両を除き、扉の横はロングシートが置かれており、そこに座るとよく見える。しかし、それ以外の席の座ると見ることは出来ない。

ステッカーで貼るものは小さいため、着席していると内容が読み取れない。扉のガラス部に貼ってあるものは、額に入ったもの同様、降車時に扉の前に来た時の広告効果を狙っていると思われる。

(2) 車両車体外側面の掲載広告とラッピング車両

車両車体外側面の掲載広告は、ステッカー又は塗装によって行われている。車体の一部に掲載される場合と、全面に掲載されるラッピングの二種類に分けて考察する。

車体の一部に掲載されている場合は、扉の周辺に集中している。これは乗降時に利用客の目に入ることを意識していると思われる。広告の大きさとしては、戸袋部分に貼られているものは大きく、一辺が 50cm 以上ある。扉のガラス部に掲載されているものもあるが、こちらは小さく 15cm 四方程度の大きさである。

一方、車体全面に広告を出すラッピング車両は一際目を引く広告である。仙台地区には完全全面広告はない。しかし、仙台空港アクセス線に入る車両に、イオンモール名取エアリの広告があり、上で取り上げた車体の一部に掲載される場合に比べて、その面積が広いことを考慮すると、ラッピングと言ってもいいだろう。広告の対象は駅ホームにいる利用客であろう。沿線にも広告効果はあるだろうが、先に挙げた車両については文字の大きさ等を考えると、駅ホームにいる利用客を対象としているのが妥当である。

仙台圏を離れてラッピング車両について考察をすると、先日東京を走る山手線が命名から 100 周年を記念して、車体の全面を国鉄ぶどう色 2 号(茶色)のステッカーで覆った記念列車を走らせた。この車両は、色がチョコレートを連想させることから明治製菓株式会社とのタイアップとなっており、車体側面には山手線命名 100 周年の文字の他に Meiji のロゴがはいつていた。また、車内の広告も全て Meiji で統一されている。現在、首都圏で使用されている車両には、車内に CM を流すことが出来る液晶パネルが搭載されており、こちらも全て Meiji の CM であった。

再び仙台圏に戻ると、仙台市地下鉄には「がんばれ！ベガルタ仙台」の

ステッカーを貼った車両が走っている。これは J2 に所属するサッカーチーム・ベガルタ仙台のホームスタジアムが仙台市地下鉄の駅に近いことから、スタジアムへの足に地下鉄を利用してもらおうとの広告である。このような地方のプロスポーツを利用した車体広告は他にもある。特に愛知県の名古屋市営地下鉄名城線は、プロ野球球団・中日ドラゴンズの本拠地、ナゴヤドームの近くを走るため、車体全面にドラゴンズの選手の写真を掲載した車両が走っている。車内も至る所にドラゴンズのマスコットであるシャオロン、パオロン、ドアラを配し、窓の上や扉と窓の間の本来広告が掲載される位置には、ドラゴンズの選手一人一人の紹介ポスターが貼られるという熱の入りようである。中吊り広告は一般の企業であるが、こちらもドラゴンズの選手やマスコットを用いているもの、又はナゴヤドーム横にある AEON の広告のみである。さらに、ナゴヤドーム前矢田駅は、ナゴヤドームに最も近い駅であることから、改札からナゴヤドームに続く通路が「DRAGONS ROAD 2009」と名付けられ、ドラゴンズの選手やコーチ、マスコットからチアリーダーの写真、ドラゴンズの歴史をまとめた年表、山本昌投手の 200 勝や立浪選手 Last Year の特集に至るまでドラゴンズ尽くしの通路となっており、名古屋を中心とした中部圏の中日支持率の高さや中日ファンの熱さが一目で分る。

(3) 仮定との比較・まとめ

冒頭で、広告の掲載位置が限られている理由として、「一つ目は、広告の掲載は本来業務（鉄道の場合では旅客・物資輸送）ではないため業務及び利用客の妨げになってはいけないこと。二つ目は、広告はその存在に気付いてもらい内容を伝えなければならないことである」と書いた。一通りの広告掲載位置について考察をしてきた今、最初の仮定と比較して、広告の掲載位置について考察したい。

まず、広告は邪魔になっていないか。結論としては、物理的に邪魔になることはない。多くの広告は壁面に掲載されており、広告の有無で空間形状が変化することがない。中吊り広告は空間内にぶら下がっているため、背の高い人は頭に触れるだろうが、紙であるためぶつかっても痛いことはなく、ほとんど気にならない。しかし、広告の内容や色遣い等が気に障るという人もいるであろう。“物理的に”邪魔でないというのはそのためである。

次に目立つ場所であるかどうかだが、一口に結論づけることはできない。鉄道の利用客は老若男女様々であり、利用の仕方も通勤通学から買い物、旅行に至るまで様々である。さらにロングシートに座る人、クロスシートに座る人、車両中央に立っている人から扉付近に立つ人まで、目線も様々である。そのため、目立つ位置かどうかは見る場所によって大きく異なるので、結論を出すのは難しい。しかし、どの位置も必ず一箇所以上からよく見えるようになっており、目立たないことはないというくらいのことは言えるだろう。

(4)最後に

生活の中に、広告は溢れている。テレビをみればCM、新聞には折り込みチラシ。街を歩くと、店頭の看板や電柱に貼ってあるビラ。仙台駅を含む大きな駅の前には大きなモニターが設置され、CMが流れている。野球を見れば球場は看板だらけで、サッカーを見れば選手が着ているユニフォームに企業の名前。広告を全く見ない日など一日もない。

広告を見ると、大抵その内容に目がいく。しかし、少し考えて欲しい。テレビを見ていてCMばかりだったらどう思うだろう。道路にはみ出すように店頭の看板が置かれていたら邪魔ではないだろうか。球場に小さな広告をだして見えるだろうか。サッカー選手のスパイクの裏に企業名を書いたところで誰が見るのだろうか。

極端な例を並べたが、気付いて欲しいのは、広告が邪魔ではないけれど気付いてもらえる場所に出されていることである。広告の掲載位置は、今回取り上げた「交通機関」に限らず、邪魔ではないことと見やすい位置であることに気を遣っている。

時には広告の内容ではなく、広告がどのように自分の、人の眼に映っているのかを考えてみると、広告が出されている場所がどのように使われている場所かが見えてくるだろう。

バス車両における広告の見え方

(1)はじめに

仙台市交通局のバス車両を媒体とした広告は、どのように見えるのかについて調査した。ここでは、バス車両を媒体とする広告の種類を、「車体広告」と「車内広告」に分けて記述していく。(これらの広告の呼び方および本文中での広告の呼び方は、一般名ではないのでご注意願いたい。)

(2)バス車体の広告

車体広告は、バスの外装に設けられた広告である。バス車体の前面や後面、左右側面で見え方と見せようとする対象が異なると考えられる。それぞれの面について以下にまとめた。

①前面



写真1：バス前面

バスとすれ違う際に、対向車線を走る車の運転手などの目に入る。バス停に並んでいる乗客が見る場合、後方に並んだ乗客の目には入らない可能性がある。

②後面



写真 2 : バス後面



写真 3 : 様々な後面広告

バスの後ろを走る車の運転手などの目に入るが、バスの乗客の目には入りにくい。

③右側面



写真 4 : バス右側面



写真5：バス右側面、広告部分を拡大

バスとすれ違う際に、対向車線を走る車の運転手などの目に入る可能性はあるが、前面に比べ見えにくい。バス停の反対側をバスが通ったときに、バス待ちの乗客から見る事ができる。

④左側面



写真6：バス左側面



写真7：バス左側面、広告部分を拡大

車などの運転手からは（バスが右折をするときを除き）あまり見えないが、ほぼ確実にバスに乗る乗客の目に入る。

上で述べたほかにも、一般歩行者からはすべての面の広告を見ることができるが、広告がある程度大きくなければ、動いている車体の広告内容を把握することは難しい。



写真8：ラッピングバス

また、「ラッピングバス」というものが存在する。「ラッピングバス」の広告は全面、または両側面に大きく広告を載せるため、バスを外から見ると人なら誰でもよく見ることができるとともに、見た人に広告の強い印象を与えることができる。

ワンステップバス（乗降口の階段が1段のバス）やノンステップバス（乗降口の階段がないバス）は、ツーステップバス（乗降口の階段が2段のバス）に比べて窓の位置が地面に近いので、左右の側面に広告が掲載されることが比較的少ない。

(3) バス車内の広告



写真 9 : 後部から見たバス車内

車内広告は、バスの内装として設けられた広告である。バス車内の広告は鉄道の広告とは違い、中吊り広告のようなものは少なく、窓上広告や窓に貼られる広告が多い。車内広告について以下にまとめた。

①窓上広告



写真 10 : 窓上広告

窓上広告は、窓の上に掲げられた広告のことである。

立っている乗客からは、少し顔を上げるだけで見ることができるため、意識せずとも見ることができるが、座っている乗客が見るためには、意識して上を向くか、あるいは反対側の窓上を見なければならないため、目に入りづらい。

②窓ステッカー広告



写真 11：窓ステッカー広告

窓ステッカー広告は、窓にステッカーとして貼られた広告のことである。立っている乗客の目線の高さに位置するため、窓上広告よりも立っている乗客の目に入りやすい。しかし、見る角度から考えて窓上広告と同じく、座っている乗客の目には入りづらい。

③窓柱広告



写真 11：窓柱広告

窓柱広告は、窓と窓の間の柱に設けられた縦に細長い広告である。窓ステッカー広告と同じ高さにあるが、大きさが小さくなるため、窓ステッカー広告に比べ見えづらい。

④運転席後部電照広告



写真 11：運転席後部電照広告

運転席後部電照広告は、運転席後部に設けられた電照板の設けられた広告のことである。

バスを降りる乗客の誰の目にも入る位置にある広告であるため、最もバス車内で効果のある広告であると思われる。

⑤天吊り広告



写真 11：天吊り広告

天吊り広告は、通路天井から吊り下げられた広告であり、鉄道では中吊り広告としてよく見かける広告である。しかし、バスにおいては天井が高くなってしまったためか、近年多く配備されているワンステップバスや、ノンステップバス内ではほぼ見かけられない。

この広告も通路を通る乗客、すなわち乗客すべての目に入るが、運転席後部広告よりも大きさは小さく、内容は少な目になってしまう。

バス車内は鉄道車内に比べ照明が暗いためか、電灯で照らされる運転席後部電照広告車内広告を除いて、全体的に見えにくい印象を持った。

(4)おわりに

普段自分が何気なく利用しているバスに設けられている広告の種類が意外に多く、様々なスペースを有効利用して広告が掲載されており、とても興味深く感じられた。また、改めてバス広告を調査することにより、鉄道車両の広告と異なっている部分も発見する事が出来た。バスに乗る際は、車窓から見える風景だけでなく、車体や車内の広告を注意深く眺めてみるのも面白いのではなかろうか。

参考資料

仙台市交通局地下鉄、バス広告媒体一覧 pdf

<http://www.kotsu.city.sendai.jp/business/koukoku/pdf/koukoku.pdf>

交通広告の栞松屋

<http://matsuya-ad.jugem.jp/>

撮影協力

仙台市交通局長町営業所

車内広告の企業をみる

(1)はじめに

広告は、広告主の企業が存在して初めて成立するものである。ここでは、『広告を出している企業』に焦点を当て、車内広告の企業の傾向を比較分析していく。

(2)調査方法および調査した線区

各線区、数両の車両をサンプルとし、企業の業種や広告の内容により、自社広告(列車を運行する鉄道会社、およびそのグループ企業による自社商品の宣伝など)、学校関係、観光・イベント、飲食物、金融業者、薬・化粧品、書籍、生活関連用品、公共広告(公共広告機構や公共機関によるもの)、住居・不動産、法律相談、家電製品、医療機関の13種類に分類して調査を行った。

複数カテゴリーに所属すると思われる広告に関しては、広告ごとに分類を統一した(例:新潟デスティネーションキャンペーンの広告主は JR 東日本などであるが、内容は観光 PR であるので、観光・イベントに分類した)。

調査対象線区一覧は、以下の通りである。主に仙台駅を発着する列車を対象としたが、比較対象として常磐線上野-取手間の快速電車 E231 系、常磐線各駅停車 E233 系、東京メトロ千代田線 6000 系の列車も調査した。なお、線区名は運用を基準としたものを使用した。

- ・ 東日本旅客鉄道株式会社(JR 東日本)
 - 東北本線:黒磯-仙台-一ノ関・利府
 - 仙山線:仙台-山形
 - 仙石線:あおば通-仙台-石巻
 - 常磐線:仙台-岩沼-いわき
 - 常磐線:取手・成田-我孫子-綾瀬・上野
- ・ 仙台空港鉄道
 - 仙台空港アクセス線(空港線):仙台-名取-仙台空港
- ・ 東京地下鉄(東京メトロ)
 - 千代田線:綾瀬-代々木上原(JR 線・小田急線へ直通運転)

(3)調査結果

調査結果を、以下の表 1-3 に示す。掲載枚数は 1 両あたりの数字であり、大きさや掲載位置は区別していない。同一編成の車両で、車内広告が同一だった場合は、まとめて記述している。

表 1:線区・車両ごとの広告の枚数(その 1)

線区	東北本線		
	719 系 H-1 編成	701 系 F2-507 編成	E721 系 P-9 編成
自社広告	6	2	2
学校関係	4	4	2
観光・イベント	8	8	6
飲食物	3	0	1
金融業者	1	1	1
薬・化粧品	1	0	0
書籍	0	0	0
生活関連用品	0	0	0
公共広告	5	5	3
住居・不動産	0	0	0
法律相談	0	0	0
家電製品	0	0	0
医療機関	0	0	0
その他	4	0	0
合計	32 枚	20 枚	15 枚

表 2:線区・車両ごとの広告の枚数(その 2)

線区	仙山線	仙石線	仙台空港アクセス線	
	719 系 H-36 編成	205 系 モハ 204-3104	E721 系 P-501 編成	SAT721 系 SAT721-101
自社広告	6	10	5	3
学校関係	4	9	1	1
観光・イベント	8	10	13	14
飲食物	3	3	8	8
金融業者	1	2	0	0
薬・化粧品	1	2	0	0
書籍	0	0	0	0
生活関連用品	0	0	0	0
公共広告	5	6	2	1
住居・不動産	0	0	0	0
法律相談	0	0	0	0
家電製品	0	0	0	0
医療機関	0	7	0	0

その他	4	2	2	2
合計	32 枚	51 枚	31 枚	29 枚

表 3:線区・車両ごとの広告の枚数(その 3)

線区	常磐線（上野・綾瀬-取手）		千代田線
	E231 系 サハ E231-206	E233 系 クハ E233-2001	6000 系 6027
自社広告	21	21	11
学校関係	13	13	4
観光・イベント	9	9	11
飲食物	21	21	9
金融業者	7	7	2
薬・化粧品	5	5	3
書籍	5	5	3
生活関連用品	4	4	3
公共広告	2	2	4
住居・不動産	5	5	4
法律相談	0	0	3
家電製品	9	9	5
医療機関	0	0	0
その他	4	4	0
合計	105 枚	93 枚	62 枚

(註) 719 系、701 系、E721 系は編成単位で調査を実施した。今回の調査では、同一編成内の車両の違いによる広告の違いはなかったため、これら 3 形式については編成番号で記述している。

なお、調査は仙台圏の車両は平成 21 年 10 月 7 日、首都圏の車両は平成 21 年 10 月 11 日に行った。

図1：広告種類の割合

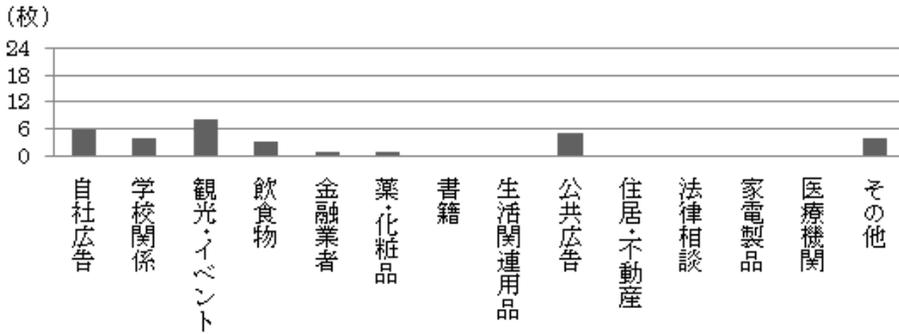
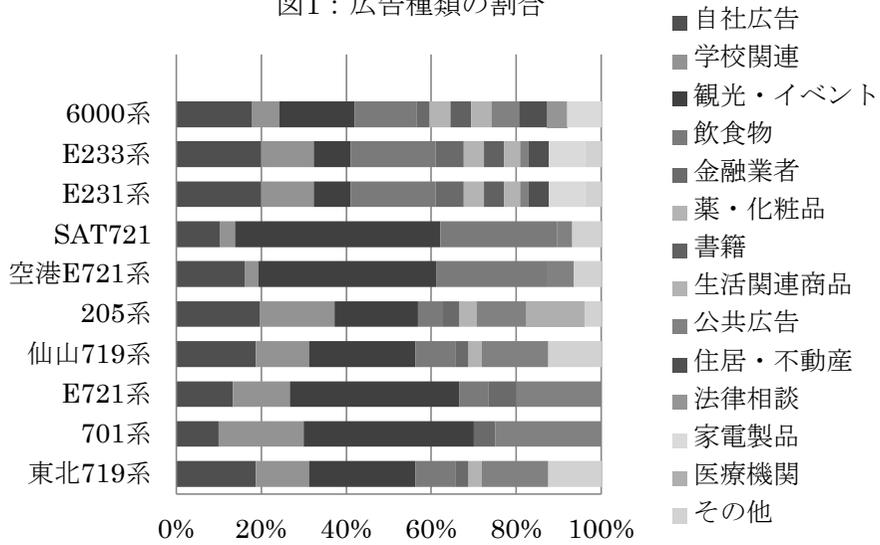


図2-1：719系東北本線分野別広告枚数

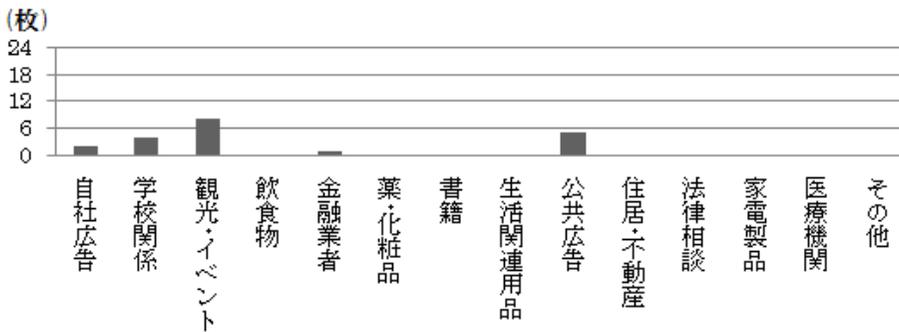


図2-2：701系東北本線分野別広告枚数

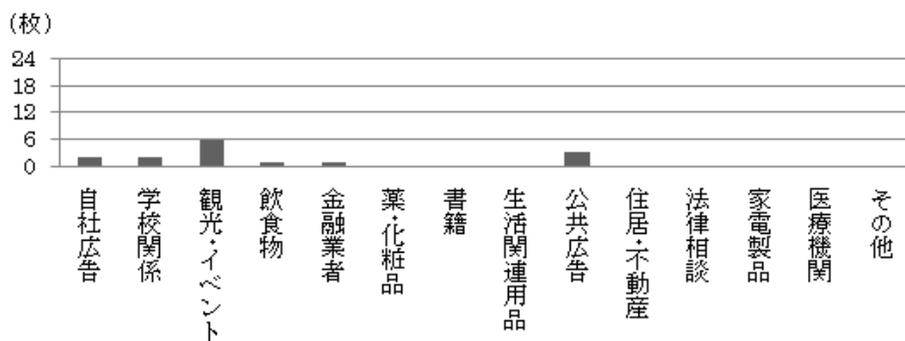


図2-3：E721系東北本線分野別広告枚数

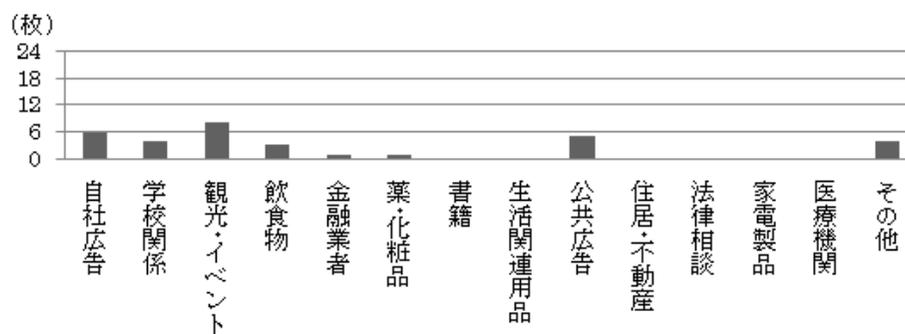


図2-4：719系仙山線分野別広告枚数

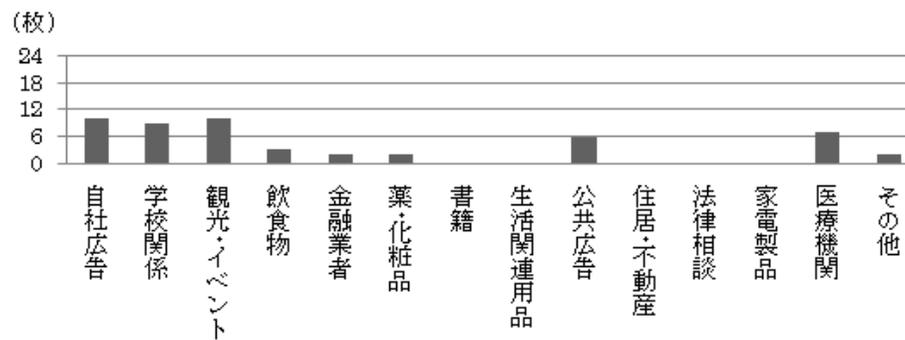


図2-5：205系仙石線分野別広告枚数

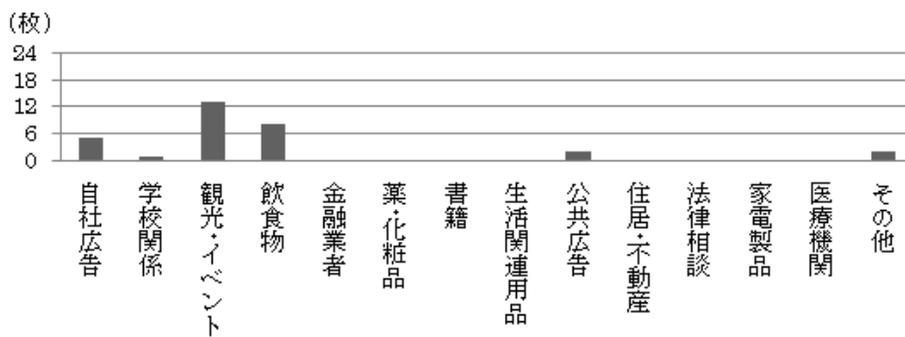


図2-6：E721系仙台空港アクセス線分野別広告枚数

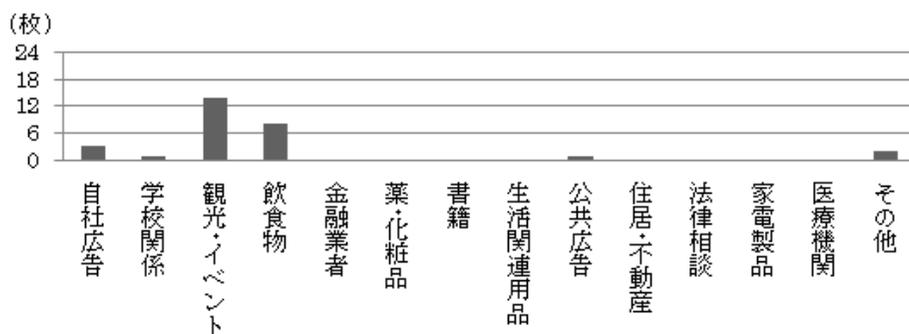


図2-7：SAT721系分野別広告枚数

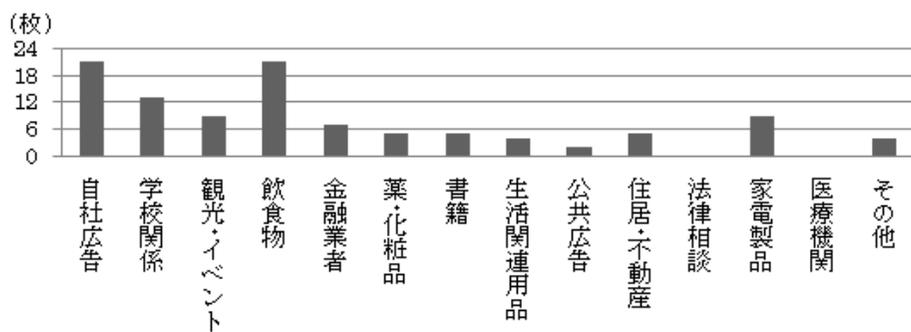


図2-8：E231系常磐線分野別広告枚数

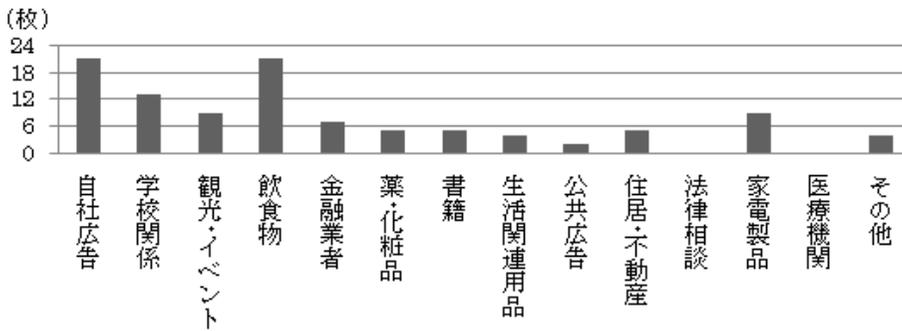


図2-9：E233系常磐緩行線分野別広告枚数

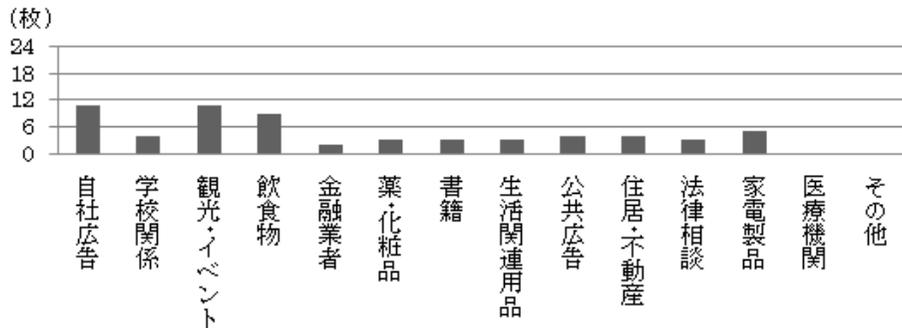


図2-10：東京メトロ6000系分野別広告枚数

(4) 考察

仙台圏の車内広告は、首都圏のそれに比べると広告の枚数や種類は少ない。また、首都圏の車内広告と比較して、仙台都市圏の車内広告には、地元の企業や医療機関などによる広告が多い傾向が見られた。特に医療機関の広告を掲載しているのは、仙石線が唯一であり、その数も7枚と多かった(表1～3参照)。

表4より、仙台都市圏では、広告の枚数が少なかった。これは平成13年度の都市圏の人口は、仙台都市圏が約155万人、東京都市圏が3200万人と東京都市圏に比べ人口が少ないのに加え、仙台都市圏の交通状況の特徴として、自動車への依存率が47.2%と東京や京阪神の大都市圏と比べて10%以上高く、逆に鉄道の依存率は、8.8%と15%程度低いことが挙げられる。また、仙台都市圏における鉄道の利用者は、東京都市圏の約1.7%に過ぎず、広告の効果は東京都市圏と比べて大きいとはいえないためであると推測される。

図1には、形式ごとの広告分野の傾向をグラフ化した。このグラフを見ると、各線区の広告の傾向がつかみやすい。

どの線区においても、自社広告や観光・イベントの広告の枚数は多い傾向にある。仙台圏の鉄道においては、そのほかの広告の枚数が首都圏と比べて少ない(表1参照)ので、相対的に自社広告や観光・イベントの広告の割合が高くなる(図1参照)。観光・イベント広告とはいっても、仙台圏のそれの多くは、仙台・宮城 伊達な旅キャンペーンや新潟デスティネーションキャンペーンであり、広告主は主に鉄道会社であるので、これらの広告

以外で得られる広告収入は、首都圏と比べればわずかであることがわかる。

また図2より東北本線、仙山線に充当される列車(図2-1～図2-4)と仙石線、仙台空港アクセス線では明らかにグラフの形が違ってくる。東北本線系統に充当される列車では、主に自社広告や大学の広告、伊達な旅の案内など広域運用でも当たり障りのないものが多く並べられていた。それに対し、仙石線(図2-5)では沿線の松島などの観光広告など、地域密着の広告が豊富であった。仙台空港アクセス線(図2-6、2-7)に充当される列車は、飲食物の広告が多く見られたが、その中でも土産物の菓子や、笹かまぼこの広告が目立っていたことがある。アクセス線の終点である仙台空港は、地方空港ではあるが国内8空港、海外7空港を結んでいる、東北と世界を結ぶ軸となる空港である。その空港利用者という特定の乗客に向けて、仙台のお土産を集中的にPRしていることが、アクセス線における広告の特徴なのだと思う。

比較対象として掲載した常磐線快速電車、各駅停車の広告(図2-8、2-9)だが、図を見るとかなりまんべんなく広告の種類が掲載されているということに気づく。家電製品の広告など、仙台地区にはなかった広告も掲載されていた。仙台地区とは違い、関東では日常的に鉄道を利用することが多い。そのため不特定多数に向けた、広範囲な広告が多く見られた。

広告は利用客層に合わせたものが掲載される。東北本線や常磐線快速電車などは、特定の客層を狙ったものは少なく、不特定多数に向けて発信されるタイプが多かった。それに対し、仙石線やアクセス線などは、地域住民や空港利用者などの特定の客層にターゲットを絞った広告が多かった。広告を通じて路線の雰囲気を感じとれることは興味深い。

表4：主要都市圏の代表交通手段の構成(単位：%)

	鉄道	自家用車	バス	その他
仙台都市圏(1992)	8.8	47.2	5.6	38.3
東京都市圏(1998)	25.5	33.1	2.4	39.0
京阪神都市圏(1990)	20.0	36.1	3.3	50.5

資料：仙台市 ホームページ

(5) おわりに

列車に乗車するとよく目に付く広告であるが、ここにも線区や地域による特色が現れていることがわかる。今回の調査では取り上げなかったが、新幹線などではデッキと客室間の扉上のLED表示にて文字広告を流すものも存在すれば、首都圏の通勤型電車には各ドア上液晶ディスプレイにて広告を「放映」しているものも存在する。車内広告の媒体は、紙のみならず様々なバリエーションがある。また、広告の企業は時期によっても変化する。夏休み期間になると旅行・観光関係の広告が増えたり、春先になると予備校の広告が増えたりする。普段は気に留めることも少ない広告であるが、たまにはその種類や企業等にも目を凝らしてみると、新しい発見があるかもしれない。

参考資料

仙台市 ホームページ

<http://city.sendai.jp/toshi/kotsukeikaku/trafficinv/index.html>

総務省統計局「平成 18 年社会生活基本調査 生活時間編に関する結果表」

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001008021&cycode=0>

車体広告

(1)はじめに

公共交通機関は旅客輸送以外にも、さまざまな機能を持ち合わせている。公共交通機関の車両は、ボディ形状がほぼ直方体であるため、平坦なスペースが多く、広告の掲出に利用することが出来る。公共交通機関の車両は、利用者の目にふれるのはもちろんであるが、走行中の列車やバスは、利用者以外の目にも触れる。多くの人の目に触れる車体はペイントを施したり、ステッカーを貼り付けたりするスペースが豊富にあるため、公共交通機関の車両は移動する広告媒体になるということも出来る。ここでは、仙台市内の公共交通機関の車体に掲示される広告の形態、内容などについて紹介していく。

(2)交通車両の広告の形態

公共交通機関の車両を広告媒体として用いる場合、車体全体に広告をラッピングする全面広告タイプ、車体の一部分に広告の看板を取り付けたり、ステッカーを張ったりして広告を行う部分広告タイプの2種類がある。仙台圏において、全面広告タイプの広告を掲出している車両は、鉄道車両には見られず、路線バスの一部の車両に限られる。鉄道車両について、部分的に広告を掲出しているのは、仙台一名取-仙台空港を運転する E721 系 500 番台、仙台市地下鉄南北線 1000 系の各編成である。この2種類の車両はともに、ステッカーの貼付による広告がある。バスについては、仙台市営バスにも宮城交通のバスにも部分的な広告が掲載されている車両が多い。具体的にどのような企業が広告を掲載しているかについては、次の項目で述べる。

(3)広告の内容

この項目では、どのような企業が交通車両に広告を掲載しているかについて述べる。

鉄道車両について、E721 系 500 番台には、仙台空港アクセス線沿線の大型ショッピングセンターの広告が写真1のように、各ドアの横と、窓の下部にステッカーが貼り付けられている。また仙台市営地下鉄南北線の 1000 系には、サッカースタジアムへのアクセスに地下鉄の利用を推奨する広告のステッカーが、写真2のように先頭車両の運転席後ろ上部に貼り付けられている。

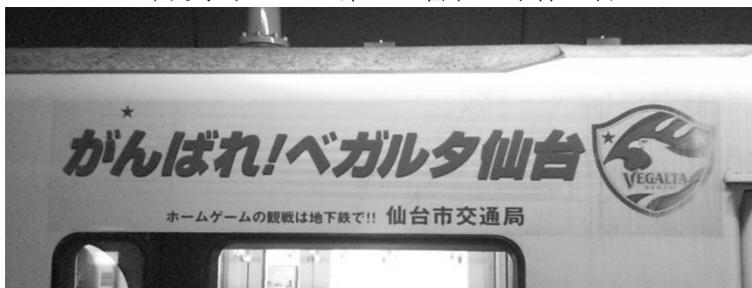
バス車体については、全面に広告を掲載しているものと、部分的に広告を掲載しているものとに分けてみていく。全面に広告があるものとしては、コンビニ ATM や、ヨドバシカメラ、保険会社、宅配ピザ、自動車学校、アウトレットモールなど掲出している業種は多岐にわたっているが、部分的に広告を掲出している企業の業種の数に比べ、業種数は、少なかった。写真3は宅配ピザの広告を、バス車体全面に掲出した車両の側面を撮影したものである。一方で、部分的に広告を掲載しているものとしては、笹かまぼこ、パン屋、牛乳屋、葬祭ホール、住宅リフォーム、アパート斡旋と

多業種にわたっている。写真4は部分的な広告が多く掲出されている、仙台市営バスの写真である。なお、表1は、バス車両に掲出される車体広告を全面広告のものと、部分的な広告に分けて表にしたものである。仙台市営バスに広告を出す場合、全面広告ならば1カ月に1台あたり約12万円が必要となるのだが、部分的な車外向けの広告ならば、1カ月に1件あたり最小サイズで約4000円から掲出することができる。このため部分的な広告は、多業種にわたってさまざまな広告が掲出されているのではないかと推測できる。

このように、公共交通機関の車体に掲出されている広告を見ていくと、掲出されている広告の内容は、その公共交通の運行路線の沿線の生活に何かしら関わるものが多い、ということが分かる。確かに、我々が目にする広告自体、ほとんどが我々の生活にかかわるものであるが、車体広告の場合その傾向が、より強くみられることがわかる。たとえば、住宅関係ならば大手建設会社ではなく、中小住宅建設会社の広告が掲出されていたり、ローカルエリアにしか掲出されない葬祭ホールの広告が掲出されたりと、やはり地域に根付いた広告が掲出されている。地域住民の足となる公共交通機関の広告は、やはりその地域のものとなるローカル広告が主になるのである。



(写真1) E721系500番台の車体広告



(写真2) 仙台市地下鉄南北線1000系の車体広告



(写真3) 宅配ピザ店の広告を全面に掲出したバスの側面



(写真4) 多様な広告が車体の各所に掲出されたバス

(表 1)バスの車体広告と内容の分類

全面広告	部分的な広告
コンビニ ATM	笹かまぼこ
ヨドバシカメラ	牛乳屋
保険会社	パン屋
宅配ピザ	葬祭ホール
自動車学校	住宅リフォーム
アウトレットモール	アパート斡旋
など	など

(4) 考察

今回、車体広告が掲出されている公共交通機関の車両について紹介したが、鉄道車両に掲出される車体広告の種類が、E721系500番台に掲出されたショッピングセンターと、仙台市地下鉄1000系に掲出されたサッカースタジアムの広告の2種類に限られていた。まず、この理由について考える。

JR線において車体広告が出ている車両が、E721系500番台のみである理由として、JR東日本仙台支社の車両運用の特徴が挙げられる。仙台駅の地上部に乗り入れる仙台空港アクセス線以外の在来線普通列車の車両は、車種にもよるが、日によって東北本線、仙山線、常磐線と運用される線区が異なる上に、運用によっては仙台から離れた福島県内のみの運用となる場合がある。この運用形態では、仙台市や名取市の鉄道利用者を対象とした車体広告を掲出しても、広告の対象である仙台市や名取市の鉄道利用者の目に、あまり触れられなくなる可能性がある。より少ない費用で、高い広告効果を期待する広告主としては、掲出費用対広告効果が悪くなる車体広告の掲出の仕方を敬遠するのではないかと推測できる。一方で、仙台空港アクセス線の車両は、仙台－名取－仙台空港のみで運用されるため、先述の仙台空港アクセス線以外の車両に比べると、仙台市や名取市の鉄道利用者を対象とした広告効果が薄れてしまう可能性は低い。同様に仙台市地下鉄南北線についても、車両が運用されるのは仙台市内である富沢－泉中央に限られるため、仙台市民を対象とした広告の効果が高く表れることが期待される。

つまり、狭い範囲で運用される車両のほうが、広い範囲で運用される車両よりも、車体広告の掲出媒体として好まれるということになる。仙台市や名取市において、広範囲ではなく、より狭い範囲で運用されることがあらかじめ分かっている鉄道車両を選んだ結果が、仙台空港アクセス線のE721系500番台と、仙台市営地下鉄南北線の1000系なのである。

次に、バスの車体広告について考える。仙台市内を走行する路線バス車両の運用範囲は、遠くとも仙台市に隣接する自治体までがほとんどである。このような運用をされるバス車両に、車体広告を掲出することの効果は、上記のE721系500番台の例と同様である。ローカルエリアの広告を、狭い範囲で運用されるバス車両に掲出することで、やはり広告効果を低下させず保つことが期待される。鉄道車両に広告を掲出する場合も、バス車両

に広告を掲出する場合も、広告主が期待するのは、狭い範囲においてより効率的な広告を展開することである。

(5)まとめ

公共交通機関の車体広告は、掲出費用対広告効果を少しでも高めるために、媒体となる車両や、掲出形態の選択が行われている。そして、掲出された広告は、ローカルエリアを対象としているものが多くみられる。

公共交通機関の車体広告には、その地域の色が濃く表れている。公共交通機関の車体広告から、その地域の生活の様子を垣間見ることができる。どこかの街に赴いた際は、公共交通機関の車体広告に着目してみると、その街の特色が見えてくることだろう。

参考資料

仙台市交通局 バス広告料金表

<http://www.kotsu.city.sendai.jp/business/koukoku/pdf/bus.pdf>

駅施設内の広告

東北地方で旅客輸送を行っている鉄道事業者として最も大規模なものは、東日本旅客鉄道株式会社（以下 JR 東日本）である。JR 東日本の仙台駅は東北地方の主要な駅である。また仙石線のあおば通駅も、オフィス街の地下にあり、多くの人々が利用する。利用者が多い駅では広告の効果が大きく、多様な広告が見られると予想される。今回は JR 東日本の仙台駅とあおば通駅について、広告の掲示状況を調査した。

(1) 広告の掲示形態

紙でできたポスターの多くは、B1¹サイズ（728mm×1030mm）のものである。ただし実際に掲示されているポスターの大きさには個体差がある。

なお広告の枚数については、次のように定義してカウントした。

- ・同一のポスターが複数掲示されている場合は、1枚ずつカウントする
- ・2枚が組になって広告としての働きをしているものに関しては、デザイン上分割しては成り立たないような場合で無い限り、広告を形成しているポスターの枚数をそれぞれカウントする。
- ・空きがあり使われていないスペースについては、広告を掲示するボードの枚数をカウントする。
- ・売店付近、売店内のポスターは原則として除く。
- ・びゅうプラザ、みどりの窓口付近の広告は除く。
- ・広告掲示用のボードに列車の編成・停止位置等の案内が貼られているものもあるが、これらの案内は含めない。

掲示内容は以下のように分類した。

自社関連商品・サービス：JR 東日本の列車・サービスを宣伝する内容のものとし、びゅうの旅行商品も含める。ただし「JR 仙台病院」と「ホテルメトロポリタン」は除く。

jeki：株式会社ジェイアール東日本企画による「広告のご用命」案内がなされているもの。

マナー：乗車マナー、喫煙マナーを呼びかける広告。

風景写真：広告用スペースに花や川といったものの写真を掲載しているもの。

一般企業の商品・サービス：JR 東日本以外の企業による広告。ただし仙台駅西口 2 階の土産については、「土産」の項に含める。

土産：仙台の名産品や銘菓についての広告。

学校：予備校、専門学校、大学を含む。英会話教室等は除く。

病院：医療機関。

¹ 日本工業規格（JIS）で定められた紙のサイズの 1 つ。
規格番号 JISP0138、規格名称 紙加工仕上寸法

宿泊施設：宿泊施設の広告。

イベント：催事の案内をしているもの。

空き：利用されていない広告掲示スペースをカウントした。

(2) 仙台駅における広告

調査範囲は、ペDESTリアンデッキ上の入り口から自由通路手前までの2階部分、および在来線改札の中とした。

① 西口2階（調査日：11月3日）

2階部分には土産を販売する店が多くあり、これらの企業が広告を出している。また2階と3階は吹き抜け構造になっており、高いところに掲示された広告がみられる。

表1 仙台駅西口2階の広告（単位：枚）

掲示内容	広告数	備考
一般企業の商品・サービス	21	
自社関連商品・サービス	18	
土産	16	
学校	11	
イベント	4	
病院	2	
空き	1	
その他	1	仙台城址の写真

特徴的なのが、柱の3面を利用した広告だ。この柱の内部には広告がプリントされた幕が入っており、一定時間ごとに幕を可動させて広告を切り替える仕組みになっている。

上記の他、土産を販売する店舗には商品の広告が掲示されている。また、駅周辺地区に企業や病院の広告が掲載されている。ステンドグラスの前では特設のブースが設けられ、商品の宣伝が行われることもある。11月3日には携帯電話の宣伝をしていた。



写真1 吹き抜けを利用して掲示された広告



写真2 周辺案内用の地図と広告

② 中央口および連絡コンコース（調査日：10月12日、10月17日）

仙台駅2階の中央口から改札内に入ると、左手には待合室と新幹線乗換口、正面には在来線ホームにつながるこ線橋がある。2番線～8番線のこ線橋は10月12日に、それより改札に近い場所は10月17日に調査した。

表2 仙台駅中央口、連絡コンコースの広告（単位：枚）

掲示内容	広告数
自社関連商品・サービス	62
jeki	8
一般企業の商品・サービス	4
マナー	2
その他	1

ポスターは主にホームにつながる階段・エスカレーター付近に掲示されている。通路の両側には電照式の広告掲示スペースがある。また持ち帰り自由のパンフレットを設置する金具がついた広告掲示スペースが多くみられる。



写真3 パンフレットを配置できる 写真4 柱に貼り付けられた広告構造の広告掲示スペース

③ 地下連絡通路（調査日：10月17日）

地下南改札口から1～8番線につながる地下通路には、通路の片側にJR東日本の路線や駅に関する紹介が、もう一方には広告が掲示されている。B2（515mm×728mm）サイズのポスターが大半を占める。

表3 地下連絡通路の広告（単位：枚）

掲示内容	広告数
自社関連商品・サービス	31

すべて自社関連商品で占められていた。

④ 仙台駅在来線ホーム（調査日：10月17日）

1番線の駅舎側を中心に、ポスターが見られる。

表4 仙台駅在来線ホームの広告（単位：枚）

掲示内容	広告数	備考
自社関連商品・サービス	36	
マナー	2	
その他	1	ありがとう 103系

調査日は仙石線用 103 系電車の運用離脱が迫っており、103 系が使用される列車の時刻を紹介するポスターがあった。

⑤ 仙石線連絡エスカレーター、仙石線東口改札内（調査日：10月12日）

1～8番線につながるこ線橋の東端には、仙石線ホーム（9・10番線）につながるエスカレーターがある。

表5 仙石線連絡エスカレーター、仙石線東口改札内の広告（単位：枚）

掲示内容	広告数	備考
自社関連商品・サービス	54	
イベント	13	
病院	3	
宿泊施設	2	
その他	2	かけこみ乗車防止のよびかけ
学校	1	

自社関連商品・サービスの紹介ポスターが、エスカレーター付近のスペースに集中的に配置されている。通路の両側に B1 サイズのポスターが 8 枚ずつ、計 16 枚貼られている。またこ線橋側からエスカレーターを下ると、エスカレーター上方の壁面に大型の広告が掲示されているのが見える。



写真5 仙石線連絡エスカレーター



写真6 通路に集中配置された広告

に設置された広告。

④ 仙石線ホーム（調査日：10月12日）

仙台駅の9・10番線は仙石線の列車が発着する。仙石線ホームは島式ホーム²となっており、地下にある。トンネルの壁面には広告が掲示されている。

表6 仙台駅仙石線ホームの広告（単位：枚）

掲示内容	広告数
風景写真	7
一般企業の商品・サービス	2
jeki	1
病院	1
自社関連商品・サービス	1

広告は少なく、ほとんどが風景写真の掲示となっている。

(3) あおば通駅における広告

調査範囲は改札内とする。

① 改札内（調査日：10月12日）

改札を通ると、売店や自動販売機が設置されているスペースがあり、その奥にはホームにつながる階段がある。

表7 あおば通駅改札内の広告（単位：枚）

掲示内容	広告数	備考
自社関連商品・サービス	13	
一般企業の商品・サービス	5	
その他	7	学校の作品展案内、 地元球団の応援、 宮城県知事選挙の案内

自動販売機が設置されているが、その周りを囲うようにパネルがあり、地元球団のアピールが行われている。

² 2本以上の線路がある駅へのホーム設置方法のひとつ。線路と線路の間にホームがある。線路を2本のホームで挟む相対式よりも少ない用地幅でホームを設置できる。



写真7 自動販売機の周り



写真8 階段の上方に掲示された広告もある。

② ホーム（調査日：10月12日）

あおば通駅は仙石線の仙台駅と同様、島式ホームを持つ。ホームからトンネルの壁面を見ると、駅名板の他に広告が目に入る。トンネルの両壁面には広告を掲示するパネルが片側7枚ずつ、計14枚設置されている。

その他、ホームに降りる階段の部分にポスターが貼られている。

表8 あおば通駅ホームの広告（単位：枚）

掲示内容	広告数	備考
風景写真	9	階段脇のポスターを含む
自社関連商品・サービス	5	
一般企業の商品・サービス	2	
学校	1	
病院	1	

風景写真が多く掲示されているが、多くは花や川を写したものだ。1つだけ、「唐桑半島・折石」と小さく文字が入ったものがある。唐桑半島や折石は宮城県の観光地であり、そのアピールをしているものと思われる。

(4) 考察

広告の内容としては、JR東日本やびゅうプラザの商品を宣伝するものが多かった。また単にきっぷや旅行プランの紹介のみならず、観光地を売り込む広告が多くみられた。特にNHK大河ドラマの舞台などの広告をよく見かけた。JR東日本としては、旅客輸送のみならず、観光地のPRを行うことで、収益を伸ばそうとしている、と考えられる。

広告の申し込み先として「ジェイアール東日本企画」の連絡先が挙げられていた。「株式会社ジェイアール東日本企画」はJR東日本グループ、そして一般広告主の広告代理業務を行う他、車両や駅の広告媒体を提供したり、イベント運営や出版をしたりと、幅広い業務を行っている企業である。

ジェイアール東日本企画では複数の広告掲示スペースをセットで提供

するプランも紹介している。首都圏の主な駅に設定されているこれらのセットプランでは、集中的に広告を掲示することによる「ジャック感」の演出をアピールしている。

仙台駅において、広告の集中配置を行う場合、有効だと思われるのは次の箇所だ。

「仙石線連絡エスカレーター・仙石線東口付近」

通路の両側に8枚ずつ、計16枚のポスターが掲示できる箇所である。取材時は通路北側の8枚がすべてTYOのポスターで占められており、同じデザインのポスターが並んだインパクトは大きかった。

「地下連絡通路」

長い通路の片側に広告掲示スペースが並んでいる。こ線橋と違い窓の部分がないので、広告を連続して掲示できる。

(5) 趣味として見た広告

広告には単にインパクトがあるだけでなく、デザインが秀逸なものもあり、見ていても面白い。広告主のホームページにアクセスしたり、写真を撮ってみたいするのも楽しいだろう。広告の調査をしている間にも、通勤途中と思われる人が足を止め、ポスターを撮影している姿を何回か見た。

催事案内のポスター等は、比較的短時間で他の広告に交換されるようだ。また印刷されたステッカーを張り付けた大型の広告であっても、ずっと貼りっぱなしというわけではないようで、気が付いたら貼り替えられていたこともある。気になる広告を見つけたら、早めに記録しておいた方がよいだろう。

参考資料

日本工業標準調査会 データベース JIS 規格詳細表示 (PDF)

<http://www.jisc.go.jp/app/pager?id=483>

駅ポスター 広告掲出駅ランク別広告料金

<http://www.jeki.co.jp/transit/station/pdf/poster.pdf> (PDF)

仙台市地下鉄における広告

(1) 広告調査

仙台市の地下鉄における広告にはどのような形態があり、またどのような企業がスポンサーとなっているか調査した。調査対象としたのは、地下鉄全駅における改札内の壁面、柱および時刻表にある広告である。



(写真1：時刻表欄の広告の例)

(2) 調査結果 (調査日：2009年9月11日)

調査結果は表1のとおりである。

表1：地下鉄の広告調査、数字は枚数

	病院	学校	店舗	マンション	仙台市	一般企業	七十七銀行
富沢	0	2	0	0	7	6	招き猫
長町南	3	0	1	2	10	11	稲
長町	3	1	1	1	16	5	
長町一丁目	0	1	1	2	14	4	修行僧
河原町	2	0	1	0	13	6	朝市
愛宕橋	2	0	1	2	14	3	
五橋	0	1	2	1	15	6	梅花橋
仙台	2	2	0	2	17	12	
広瀬通	2	0	2	0	22	12	
勾当台公園	2	2	0	2	24	6	
北四番丁	3	1	1	1	13	8	侍屋敷
北仙台	1	1	1	0	18	7	馬
台原	1	0	1	0	15	2	堤焼
旭ヶ丘	2	2	0	1	9	3	朝日の丘
黒松	0	0	0	0	11	7	クロマツ
八乙女	2	1	1	0	17	6	八乙女淡路
泉中央	1	1	2	0	16	18	泉ヶ岳

市営地下鉄ということで仙台市に関連する広告が最も多かった。一般企業の広告も多かった。しかし、病院や学校など沿線の施設に関する広告があまり多くなかった。また、地元の七十七銀行が独自の広告を展開しているが、どの駅にも設置されているわけではないということも分かった。

①仙台市の広告

市の広告は、農業園芸センターや地底の森ミュージアム、福祉プラザといった市の施設に関するものが最も多かった。そのほか、「100万人のごみ減量大作戦」や「百年の杜づくり」など市民への啓発広告や、プロスポーツ応援の広告も見られた。また、各駅の改札口に地下鉄東西線計画のポスターが掲示されていた。

②一般企業の広告

内容に関して、駅ごとによって変わっているというものは少なく、どの駅にも改札口近くや時刻表の広告スペースに広告を出している企業が多かった。中心部の仙台・広瀬通と、南北の拠点となる長町南・泉中央の各駅では10以上の広告スペースに一般企業が広告を出していた。

③沿線における病院・学校等施設の広告

病院・診療所に関しては、その施設の最寄り駅となる駅にのみ広告を展開している場合が多い。ただ、市内中心部における診療所の中には、複数駅のホーム壁面に広告を出していたものもあった。

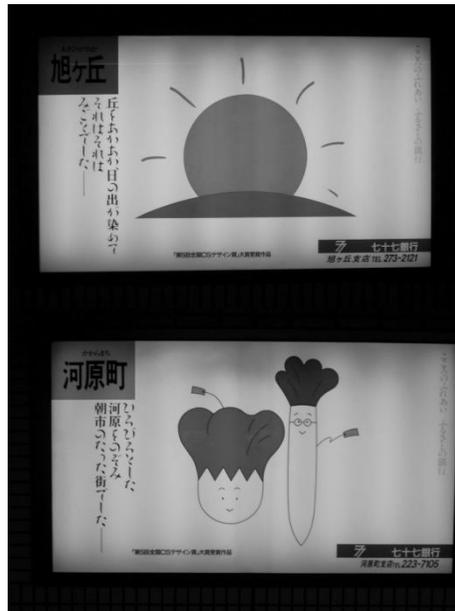
学校法人の広告は、ほとんど特定の1法人により出されていたものであり、それらはすべて時刻表欄の広告スペースに掲示されていた。電車内でよく見かける専門学校系の宣伝広告は、駅施設においてはほとんど見られなかった。

店の広告は、いくつかの駅で中心部にあるファッションビルバーゲンを開催するという宣伝が改札口近くに見られたほどで、沿線の飲食店などの広告が見られたのは五橋駅のみであった。

マンションの広告は市内中心部と南部が多く、北部における住宅街ではそれほど多くなかった。その多くが改札近くのスペースに貼られていたが、柱広告を出す企業もあった。

④七十七銀行の広告

この会社の広告を別に示した理由としては、少々特殊な広告を展開しており、その図柄が駅ごとに異なっていることが挙げられる。絵のモチーフとなっているものの一覧は表1のとおりで、どれもその駅に関連したイラストとなっている。たとえば、黒松であればクロマツが、旭ヶ丘であれば朝日が昇る丘のイラストが描かれている。また、その土地の由来を説明するものもあり、八乙女であればその名字の殿様が存在したこと、五橋はその昔「梅花橋」と呼ばれる5つの橋があったことに由来する、といったものである。このようなその土地にまつわる広告を出すのは、地元企業ならではの取り組みであるといえよう。



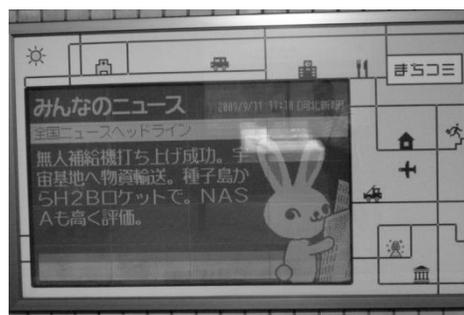
(写真2：七十七銀行の広告の例。左が旭ヶ丘、右が河原町。)

(3) 新しい広告の取り組み

仙台市地下鉄の駅構内には、これまでに取り上げた従来型の広告に加え、新たな種類の広告も登場している。それが電子ペーパー広告である。

これはデジタルサイネージと呼ばれる、交通機関や店頭などの家庭以外に設置された電子ディスプレイに、ネットワーク経由で情報を提供する新しいメディアのひとつである。メリットとしては、従来固定であった広告を可変表示にすることによって幅広い情報を表示できるようにしたという点がある。

交通局では、この電子ペーパー広告に「まちコミ」という名前を付けている。現在では仙台駅に2枚、勾当台公園、長町南、泉中央の各駅に1枚、いずれもホーム階壁面に設置している。流れる情報は、広告だけでなく、その日のニュースやスポーツ情報、レンタルCDランキング、天気予報、地元のプロスポーツ球団の情報、川柳など多岐にわたる。



(写真3：「まちコミ」の設置例、長町南にて)

(4)おわりに

同じ「広告」といっても、駅ごとに少しずつその構成が異なっており、一様ではないということが分かった。また、従来の壁面における広告のみならず、電子ペーパーのように新たな媒体を利用した広告も登場している。

普段何気なく利用している地下鉄であるが、どの企業が広告を出しているか、宣伝の仕方はどうかということにはほとんど関心がないという人が多いのではないだろうか。ちょっとした列車の待ち時間に壁や時刻表に目をやって、意識して広告を見てくれる人が増えてくれれば幸いである。

参考資料

仙台市交通局 「地下鉄駅に『電子ペーパー』広告を設置しています」
<http://www.kotsu.city.sendai.jp/subway/epaper/index.html>

バス停の広告

(1)はじめに

市内を多く行き交うバスは多くの市民に利用されているが、バスに乗り降りするバス停も多くの人が利用する施設である。また、道路際にあるため、歩行者や自動車からも目に付きやすい施設であると言える。

今回は、宮城交通と仙台市営バスのバス停を三種類に大別し、どのように広告が掲載されているのかを調査した。

(2)大型の広告

写真1は地下鉄八乙女駅近くの向原バス停である。大型の広告が設置されており、反対側の車道や遠方からでも見る事が出来る。



(写真1:向原。道路と垂直に広告が設置されている)

広告の内側に照明が設置されているため、夜間でも視認性は良い。なお、写真2の様に、道路と平行に広告が設置されているバス停もあった。



(写真2:加齢医学研究所入口。道路と平行に設置されている)

このバス停は「広告付きバス停留所上屋整備事業」として設置されているもので、掲出される広告の収入によって上屋の製造、設置、清掃、維持管理といった費用の一切を賄う。現在、設置工事が進められており、最終的には市内500箇所を設置される予定である。なお、この広告は2週間毎に入れ換えられることになっている。

(3) 停留所標識に付属する広告（自光式）

写真3は地下鉄泉中央駅バス停の停留所標識である。



(写真3:泉中央駅。停留所名、行先、系統図、時刻表等を掲示)

夜間に内部で照明が点灯するタイプのものは三段になっている。上段にはバス事業者名が記載され、宮城交通の場合は赤、市バスの場合は緑色になっている。従って、広告が掲載されているのは中段と下段であるが、バス停である為、降車専用のものを除き、時刻表や路線図が設置されている。また、停留所名や次のバス停の名前、行先等も掲示されている。

そのため、広告は残ったスペースに設置されている。基本的には停留所標識一本に対し一枚が掲載されていたが、複数の方向に掲載されている標識もあった。

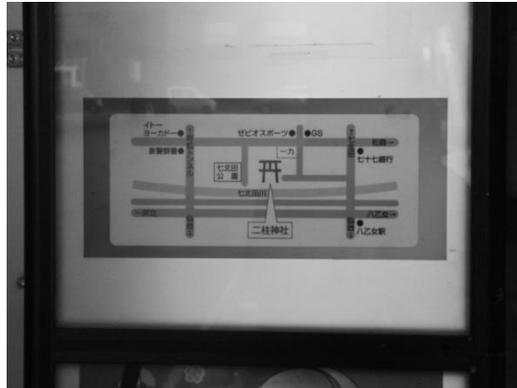


(写真4:八乙女駅。名称の出た広告と反対側の地図の入った広告)

また、大きさも、一段分のものが大半であったが、中段と下段にまたがる大型の物や、逆にステッカー程度の小型のものも見られた。



(写真 5:泉中央駅。下段だけでなく、中段まで使った大型の広告)



(写真 6:泉中央駅。他の広告に比べると小さい)

また、一部のバス停では停留所名の下に、付近の施設の名称が示されていた。

なお、大型の広告は下段に、小型の広告は中段にと、上下の掲載位置は統一されてた。

向きについては道路に向かって左右の面に掲出されたものが多かったが、歩道側に掲出されたものもあった。意外なことだが、バス利用者の見ることの出来ない道路側に広告が出されているバス停もあった。

(4) 停留所標識に付属する広告（板タイプ）

照明の設置されていないタイプの停留所標識は二面しかないため、面積が小さく、時刻表や路線図の下に広告が貼り付けられている。このため、掲載可能なスペースは限られている。



(写真 7: 泉中央駅。スペースの関係か一番下に設置されている)

また、先ほどの自光式のバス停と同様、一部のバス停では、停留所名の下に、付近の施設の名称が示されていた。



(写真 8: 上谷刈二丁目。停留所名の下に病院名が出ている)

(5) 広告主について

広告付きバス停留所上屋整備事業による大型のものは、商品やブランド、イベントと幅広い分野の広告が掲出されていた。

他の2種については、遠方のものも見られたが、基本的にはバス停近辺（徒歩圏内）のものが多かった。



(写真 9:八乙女駅。バスで8分ほどかかる)

診療所や病院といった医療機関の広告が多かったが、神社仏閣の広告も見られたほか、大学近くのバス停では語学教室の広告も見られた。



(写真 10:泉中央駅。二柱神社の広告)



(写真 11:東北大学川内北キャンパス・萩ホール前。英会話学校の広告)

(6) 考察

以上バス停の広告の掲載位置等を紹介してきたが、道路側を向いた広告等、対象がバスを待つ人のみではないことが判る。特に、大型の広告はかなり遠くからでも目に付き、自動車の利用者や歩行者を意識しているものと考えられる。

広告の内容については、大型のものは多種に渡った。一方、従来からあるタイプのバス停では、商品紹介の類のものは見られず、施設そのものの案内が見られた。特に、施設名は大きく書かれ、場所や連絡先などは小さ目に書かれていた。内容もかなり簡単なものに限られ、一目で内容全てが把握できる程度の情報量に絞られていた。これはバス停という施設の性格上、じっくりと時間をかけて読むものは向かないからであると考えられる。

参考資料

宮城交通バス時刻・運賃案内

<http://www.miyakoujikoku.com/>

「広告付きバス停留所上屋設置事業」を本格実施します(PDF)

<http://www.kotsu.city.sendai.jp/bus/news/pdf/honkakujissi.pdf>

仙台地区における 各交通機関の広告料

本章では、仙台地区に於ける各交通機関の広告料をまとめる。

今回の調査では独自に広告を募集している仙台市交通局と、仙台地区の交通機関に広告を掲出している広告会社3社の広告料を調査した。

調査した会社は五十音順に次の通りである。

交通広告の(株)松屋
交通広告の近宣
東北総合サービス株式会社

尚、以下の図表で使用される表記は次の通り。

掲出期間は以下表中では期間と表示。

料金は税込み価格(円)で表示。

仙台空港アクセス線は表中では空港アクセス線で表示。

(1) 鉄道機関

JR 東日本、仙台空港鉄道及び阿武隈急行

車内広告

①中吊り広告

仙台地区の中吊り広告掲出料は以下の図1の通りである。

車両の形式毎に掲出可能枚数が異なるので、掲出料は形式毎に設定されていた。

表1 中吊り広告掲出料金表

路線名	期間	枚数 (枚)	中吊り (円)	中吊り ワイド (円)	適用
仙石線(205系)	3日	180	52,500	105,000	全車両各2枚 (表・裏)
東北本線・仙山線 (719系)	6日		105,000	210,000	
東北本線(E721系)		190	31,500	63,000	
東北本線(701系)					
空港アクセス線 (SAT721系)	35				

注) 中吊り広告の規格はB3(364×515)cmである。



写真1 中吊りワイド広告の例

②額面広告
窓上ポスター

窓上ポスターは殆どの路線で1ヶ月と3ヶ月の料金設定だったが、仙石線のみその他に2週間と1ヶ年の設定があった。

表2 窓上ポスター掲出料金表

路線名(形式名)	期間	規格	枚数(枚)	料金(円)	備考		
仙石線(205系)	14日	B3	90	47,250	1車両1枚		
	1ヶ月			84,000			
	3ヶ月 1年		180	116,550	1車両2枚		
				90	122,850	1車両1枚	
			441,000				
東北本線・仙山線 (719系)	1ヶ月		90	101,850	1車両1枚		
	3ヶ月			233,100			
東北本線(701系)	1ヶ月		100	92,400			1車両1枚
	3ヶ月	204,750					
東北本線・常磐線 (E721系)	1ヶ月	90	84,000	1車両1枚			
	3ヶ月		189,000				
空港アクセス線 (SAT721系)	1ヶ月	20	26,500			1車両1枚	
	3ヶ月		72,450				



写真2 窓上ポスターの例

ドア上ポスター

ドア上ポスターは掲出期間には統一性が見られたが、形式毎にサイズが異なるからか料金設定が異なっていた。

表3 ドア上ポスター掲出料金表

路線名(形式名)	期間	サイズ(cm)	枚数(枚)	料金(円)	備考
仙石線(205系)	1ヶ月	14.5×102.8	90	57,750	1車両 1枚
東北本線・仙山線(719系)		24.5×101.2		102,900	
東北本線・常磐線(E721系)		14.5×102.8		70,350	
空港アクセス線(SAT721系)	3ヶ月		26,250		
				20	



写真3 ドア上ポスターの例

ドア横ポスター

表4 ドア横ポスター掲出料金表

路線名(形式名)	掲出期間	規格	枚数(枚)	料金(円)	備考
仙石線(205系)	1ヶ月	B3	260	420,000	1車両4枚 (一部2枚)
	3ヶ月			1,048,950	
	1ヶ月		290	472,500	1車両4枚
	3ヶ月			1,193,850	
東北本線・仙山線 (719系)	1ヶ月		90	220,500	1車両1枚
	3ヶ月			516,600	
	15日		360	299,250	1車両4枚
東北本線・常磐線 (E721系)	1ヶ月		90	168,000	1車両1枚
	3ヶ月			409,500	
	15日		360	262,500	1車両4枚
東北本線(701系)	1ヶ月		100	195,300	1車両1枚
	3ヶ月			447,300	
空港アクセス線 (SAT721系)	1ヶ月	35	63,000	1車両2枚	
		70	126,000	1車両4枚	



写真3 ドア横ポスターの例

ステッカー広告

ステッカー広告とは、ドアの窓や前出のドア横ポスターの上または下に張られているステッカーの広告である。

表5 ステッカー掲出料金表

路線名(形式名)	期間	サイズ (cm)	枚数 (枚)	料金 (円)	備考
仙石線(205系)	1ヶ月	16.5×20	90	63,000	1車両1枚
東北本線・仙山線 (719系)			90	68,250	
東北本線(701系)			100	63,000	



写真4 ステッカー広告の例(写真上部)

③車体広告

車体広告は東北総合サービス株式会社で、仙石線のみ料金を表示していた。

表6 車体広告掲出料金表

期間	1編成の面積	1両あたりの面積	金額(円)		合計料金
			広告料		
1ヶ月	40 m ²	10 m ² (片面5 m ² まで)	広告料	325,500	1,144,500
			プリント加工 (素材シート込)	504,000	
			貼付剥離施工費 (1編成)	315,000	
2ヶ月	40 m ²	10 m ² (片面5 m ² まで)	広告料	830,550	1,649,550
			プリント加工 (素材シート込)	504,000	
			貼付剥離施工費 (1編成)	315,000	

駅構内の広告

駅ポスター

駅ポスターは、広告会社によって駅がランク分けされており、そのランクによって掲出料金が異なっていた。

表7-1 駅ポスター掲出料金表

ランク	期間	B0	B1	B2
B	7日	58,800	29,400	14,700
C		37,800	18,900	9,450
D		19,320	9,660	4,830
E		14,700	7,350	3,675
F		9,660	4,830	2,415
G		6,720	3,360	1,680
H		3,570	1,785	945

駅のランクはその駅の乗降客数等を考慮して設定されているものと考えられる。仙台地区の駅のランクは次の通り。

- A 該当駅無し。
- B 仙台/あおば通
- C 郡山/福島/山形

D 岩沼/名取/南仙台/多賀城/本塩釜/古川/石巻

E 二本松/会津若松/白石/白石蔵王/太子堂/長町/小牛田/塩釜/北仙台/陸前原ノ町/福田町/新庄/くりこま高原

F 白河/新白河/大河原/船岡/岩切/小鶴新田/陸前高砂/中野栄/下馬/利府/亘理/米沢/かみのやま温泉/天童/東北福祉大前

G 矢吹/須賀川/安積永盛/本宮/松川/金谷川/南福島/槻木/東仙台/国府多賀城/松島/鹿島台/榴ヶ岡/苦竹/東塩釜/松島海岸/矢本/陸前山下/船引/三春/喜多方/国見/赤湯/北山形/さくらんぼ東根/村山/寒河江/山下/涌谷/陸前落合

H 安達/東福島/伊達/桑折/藤田/松山町/田尻/瀬峰/新田/石越/陸前赤井/蛇田/小野新町/大越/磐梯熱海/猪苗代/西若松/会津坂下/会津宮下/会津川口/只見/岩出山/鳴子温泉/最上/前谷地/渡波/女川/志津川/蔵王/大石田/左沢/今泉/浜吉田/坂元/山寺/その他・駅員無配置駅等

また駅利用者以外にも多くの人を通る仙台駅及びあおば通駅自由通路に掲出するポスターの料金は、別途に設定されていた。

表 7-2 仙台、あおば通駅地下通路のポスター掲出料金表

名称	期間	規格	枚数 (枚)	料金(円)
仙台駅自由通路南側集中貼り	7日	B1	28	823,200
仙台駅自由通路北側集中貼り			24	705,600
仙台駅東口地下自由通路集中貼り			12	352,800
あおば通駅地下自由通路集中貼り				

フラッグ広告

フラッグ広告とは、仙台駅吹き抜けコンコースの天井からつり下げる広告のことである。

表 8 フラッグ広告掲出料金表

種別	サイズ(cm)	期間	料金(円)
大型	300×300	1ヶ月	642,180
ロング	400×125		615,300



写真5 大型フラッグ広告の例

自動改札ステッカー広告

自動改札ステッカー広告は自動改札の正面及び天部にステッカー広告を掲出するものである。

表9 自動改札ステッカー広告掲出料金表

駅名	位置	サイズ(cm)	枚数	期間	料金(円)
仙台駅 (含あおば通)	天部	22×10.5	48	1ヶ月	610,385
	正面部		49		393,078

仙台空港鉄道内での広告料金

仙台空港アクセス線を有する仙台空港鉄道内での駅ポスター掲出料金は、JRの駅に設定されていた料金体系とは異なったものが設定されていた。

表10 仙台空港鉄道内での駅ポスター掲出料金表

駅名	期間	料金(円)		掲出開始
		B0	B1	
仙台空港	7日	25,200	12,600	月曜日
杜せきのした		21,000	10,500	
美田園		10,500	5,250	

阿武隈急行内での広告料金

阿武隈急行内での駅ポスター掲出料金も仙台空港鉄道と同様に、独自の料金体系が採用されていた。また、阿武隈急行では掲出期間が10日を1サイクルで設定されていた。

表11 阿武隈急行内での駅ポスター掲出料金表

駅名	期間	料金(円)		
		B0	B1	B2
福島、卸町、保原、角田	10日	9,450	4,725	3,150
梁川、やながわ希望の森公園前、丸森		7,560	3,780	2,520

仙台市交通局（仙台市地下鉄）

仙台市地下鉄では、交通局募集の広告と広告会社募集の広告とがあり、それぞれ違った部分の広告を募集していた。

交通局募集の広告料

①車内広告

表12 交通局募集の車内広告掲出料金表

媒体種別	規格(サイズ) 単位 cm	枚数	期間	料金 (円)
中吊り	B3横 (ワイド可)	160	3日 (水～金)	136,500
			4日 (土～火)	
中吊りジャック	B3横 (ワイド可)	144 (ワイドは 72)	7日 (水～火)	336,000
網棚上額面(4ヶ月以上)	H28×W61.5	全車(84)	1ヶ月	126,000
網棚上額面(3ヶ月以下)				157,500
扉上額面	H28×W61.5			184,800
窓ガラスステッカー	H16.5×W20			80,850
ドアガラスステッカー	H16.5×W20	全車(168)	1ヶ月	168,000
ツインステッカー	H9×W35			189,000
リンテル(注)	H13.5×W122	80		161,700

(注) リンテルとはJR車両のドア上広告に該当する部分に掲出される広告のことである。

②車体広告

表 13 交通局募集の車体広告掲出料金

媒体種別	位置	サイズ(cm)	数量	期間	料金 (円)
車体扉上ステッカー	車外	H30×W90	1編成 32枚	1ヶ月	105,000

③構内広告

表 14 交通局募集の構内広告掲出料金表

媒体種別	位置	規格(サイズ) 単位 cm	数量	期間	料金
駅貼ポスター	駅構内	B1 縦もしくは B0 横	B1・48枚	7日	336,000
			B1・42枚		
アドピラー	コンコース 柱	H180×W220	西セット 11本	1ヶ月	577,500
			中セット 11本		630,000
			東セット 12本		735,000
			東西セット 14本		210,000
H180×W252	12本	551,250			
ラッチステッカー	改札機上部	H10×W30	1セット 193枚		
アドストラップ (吊革)	車内吊革	円柱 5×9 以内 長方形 5×9×3 以内	2セット 2,520個		420,000
ショウウィンドウ	仙台駅	6.3㎡	1箇所		126,000
ピラーパネル	駅構内	B1	1セット (4枚)		105,000



写真 6 アドピラーの例

広告会社募集の広告料

前出の交通局募集の他に、交通広告の近宣が広告の募集を行っていた。

(1) 車内広告

表 15 広告会社募集の車内広告掲出料金表

媒体種別	期間	サイズ (cm)	枚数(枚)	料金(円)
窓上ポスター	1ヶ月	28×51.5	84	157,000
ドア上ポスター		28×61		184,800
窓ガラスステッカー	1ヶ月	16.5×20	84	80,850
	1年			970,200
ドアガラスステッカー	1ヶ月		168	168,000
	1年			2,016,000
ツインステッカー	1ヶ月	9×35	168	189,000
	1年			2,268,000

(2)バス機関

バスに於ける広告は、仙台市交通局が自ら広告募集を行っている広告と、代理店が募集している広告の二種類があった。

宮城交通は、今回の調査では広告会社募集のものしか発見できなかった。

交通局募集広告

表 16 交通局募集の広告掲出料金表

媒体種別	位置	サイズ(規格)	期間	料金(円)
外側板	車外	H60×W120	1年	81,900
外側板(ロング)		H60×W240	1ヶ月	12,600
外側板(中型車用)		H50×W150	1ヶ月	6,825
前部板		H35×W60	1年	63,000
後部板(小)		H45×W60	1ヶ月	4,200
後部板(大)		H45×W120	1年	100,800
後部窓ガラスステッカー		H20×W60	1年	37,800
後部窓ワイドステッカー		H24×W140	1年	75,600
ウィンドウビジョンステッカー		車外窓	H43×W153	2枚 1ヶ月
ボディ広告 (フルラッピング)	車外	車体全面(40㎡以内)	1年	1,260,000
			1ヶ月	126,000
ボディ広告 (ハーフラッピング)	車外	車体側面 (9.5㎡以内)	1年	525,000
			1ヶ月	52,500
車内ポスター	車内	B3	10日	788
車内側吊		H31×W75	1年	31,500
運転席後部電照		H39×W54(B3)	1ヶ月	6,300
運転席後部電照ポケット		A4版三つ折り程度	1ヶ月	840
窓柱		H15×W6	1ヶ月	2,625
中扉両面ステッカー		車外車内	H24×W50	1ヶ月
窓ガラスステッカー	車内窓	H24×W50	1年	14,400
車内天吊	車内天井	H13×W38	1年	10,080

広告企業募集広告

表 18-1 広告会社募集の広告掲出料金表

種別	事業者	期間	規格	枚数	料金(円)
車内ポスター	仙台市交通局	10 日	B3	489	385,087
	宮城交通			447	305,077

表 18-2 広告会社募集の広告掲出料金表

種別	事業者	期間	台数	料金
ラッピング	仙台市交通局	1 年	1	1,260,000
	宮城交通			1,155,000

以上が今回調査した各交通機関の広告料の一覧である。

(3) 考察

同一形式で車内広告の掲出料金を比較してみると、例えば 719 系では、表 2 及び表 3 より窓上ポスターが一ヶ月 101,850 円、ドア上ポスターは一ヶ月 102,900 円とドア上広告の方が高く設定されていることが分かる。E721 系や SAT721 系、205 系にも同様の傾向が見られる。この理由としてドアは降車時に必ず通る為、広告を目にする機会が窓上よりも多いとからだと考えられる。

仙台駅及びあおば通駅全ての自動改札にステッカー広告を掲出できる料金は、表 9 より 610,850 円である。また、ロングフラッグ広告 1 枚を仙台駅吹き抜けコンコースに掲出できる料金は、表 8 より 615,300 円とほぼ同額となっている。たしかに、広告の面積だけを比較すればフラッグ広告の方が圧倒的に大きい。しかし、自動改札は仙台駅及びあおば通駅利用者であれば必ず利用する上、両駅全ての自動改札にステッカー広告を掲出すれば、フラッグ広告を掲出できる中央改札口以外の改札を通る駅利用者に対しても、ステッカー広告による宣伝効果が期待できる。以上の理由から、これら 2 つの広告料はほぼ同額になっていると思われる。

バスの車外広告について、例えばバス側面に取り付ける外側板の料金は表 16 より一年で 81,900 円。一方、外側板(ロングではない。以下外側板とのみ表記)よりも面積が 2 倍となる外側板(ロング)の料金は一ヶ月 12,600 円となっている。一年単位で計算するとロングの料金は 151,200 円となり、一年間広告を掲出するのであれば、一ヶ月単位で料金が設定され

ている普通の外側板広告を掲出するよりも、ロング広告を掲出した方が料金が安い上、広告対象者により効果的に宣伝できると考えられる。ただ、普通の外側板広告には、一月単位で広告を掲出できる利点がある。

以上を踏まえると、設定されている料金から考えて交通機関に掲出される広告は三つに大別されると考えられる。

一つ目は、車内広告の様に広告対象者が停止した状態で見ると考えられる広告である。当該広告の料金は、掲出される広告の面積よりも広告の掲出位置に重きをなして設定されていると考えられる。

二つ目は、広告対象者が徒歩レベルの速度で見られる機会が多いと考えられる広告である。当該広告は広告の面積とその掲出位置のどちらも広告料決定に重きをなしていると考えられる。

そして、三つ目は広告対象者が徒歩を上回る速度で見られていると考えられる広告である。バスのラッピング広告や鉄道車両の車体広告などがこれに当てはまり、当該広告の料金設定はその位置よりも掲出面積に重きをなしていると考えられる。但し、仙台地区では鉄道よりも市街地を運行するバスが前出の広告効果がより期待できると思われる。また鉄道の車体広告は、車両が駅停車中に駅にいる人に対して広告効果が期待できると思われる。

参考資料

交通広告の(株)松屋 <http://matsuya-ad.jugem.jp/>

交通広告の近宣 <http://www.kinnsenn.co.jp/>

仙台市交通局 <http://www.kotsu.city.senndai.jp/>

東北総合サービス株式会社 <http://www.jr-tss.co.jp/>

東北大学鉄道研究会機関誌 「青葉」のご案内

青葉 29号 1988年4月発行 800円

実態、これが仙鉄局だ／弘南鉄道／国鉄全線完乗までの足跡／片隅のバス停／地下鉄時代のバス／道の話、足の話／ボクと旅と手紙／ふと感じたこと／武蔵野線／仙台地区の電車／れべるくろっしんぐ 88(市営地下鉄の紹介)

青葉 30号 1989年5月発行 1000円

東名ハイウェイバス運行史／新幹線の特急料金／千葉急行電鉄／阿武隈急行／仙山線を売った仙鉄局／小さな写真館／私案ダイヤ釧路 - 上野間寝台特急／新潟交通電鉄線／715系1000番台—その形態を見る—／鳥獣戯話／れべるくろっしんぐ 89(宮城のちょっと変わった鉄道風景ほか)

青葉 31号 1990年5月発行 1000円

昭和34年の国鉄急行列車／吹雪／仙鉄局は仙山線を売ったのか／阿佐線／賃改／東北硬券白書／急行べにばな3号の旅／利府／線路のない風景／れべるくろっしんぐ 90(探検・宮城の貨物線ほか)

青葉 34号 1996年5月発行 900円

JRの空港特急について／島旅の扉を開けた頃／概説・大型二種免許／我が郷愁の板谷峠／旧国鉄・2万キロへ(九州編)／鉄道写真～その魅力・私の撮影記録から～／駅

青葉 36号 1999年5月発行 1200円

<東海>のあしあと／車窓から見える城／気仙沼線の一考察／つばさは北へ／東北本線撮影地ガイド VOL.1(仙台～黒磯間)／1998年度東北大学大学祭研究発表 仙山線／れべるくろっしんぐ 99(みちのく宮城の駅からほか)

青葉 37号 2000年6月発行 1450円

西武鉄道レオカード史／昔日の面影／さよなら ED78／仙台空港アクセス鉄道の経緯とこれから／道の話／北海道紀行 1998／小さな旅南東北フリーきっぷの歩み／私と東武のつりかけ車／山形新幹線新庄延伸開業—その変化—／仙石線の活性化についての一考察／北の大静脈／東北本線撮影地ガイド VOL.2(青森～仙台間)／県北への旅／れべるくろっしんぐ 2000(るるむ宮城ほか)

青葉 38 号 2002 年 6 月発行 1200 円

青春 18 きっぷパンフレットの変遷／北海道の廃止路線をゆく／焔／周極
星たち／北の大静脈 2／特集：東北本線

青葉 39 号 2005 年 3 月発行 1300 円

富士に跳ねるウサギ／JR 運賃計算におけるトリック／みやぎの鉄道名景
(その 1)／バス運賃／大手私鉄運賃の形態解析／陽炎／北海道の廃止路
線・その後／富山の路面電車と佐伯宗義／みやぎの鉄道名景(その 2)／鉄
道に関する法律問題／祝！完乗達成！西村将氏に訊く JR 全線 2 万キロ／
2003 年度東北大学大学祭研究発表～鉄道と食～／レベルクロッシング
2004(宮城の乗降客数ワースト駅ランキングほか)

上記以外の号の在庫はございません。ご了承下さい。

- ・ 36 号と 37 号のセット販売を実施しております。同時にご注文頂いた
場合に限り、1 セット 2300 円で提供しております。どうぞご利用下さ
い。
- ・ <http://www.aoba-trfc.sakura.ne.jp/>で、より詳しい青葉情報を提供し
ております。是非ご覧下さい。
- ・ 青葉 40 号については現在検討中です。詳細が決まり次第ホームページ
にてお知らせいたします。





<仙台駅地下に並ぶ柱に貼られた広告>

2009年度 大学祭あおば

2009年11月吉日発行

編集・発行 東北大学鉄道研究会
〒980-0862

仙台市青葉区川内
東北大学川内北キャンパス G-12
URL:<http://www.aoba-trfc.sakura.ne.jp/>